

「水のまち」うきは



「水のまち」うきはと称されるように、うきは市は水環境に恵まれ、生活用水は全て地下水でまかなわれています。耳納連山と阿蘇山を水源とする筑後川水系からしみ出る豊富な地下水は、古くから地域の暮らしを支え、市民の暮らしと地域経済に欠かせないので、貴重な財産となっています。

また、水辺に暮らすカエル類やイモリが市街地から山間まで広く見られるほか、トゲナベタムシなどの良好な水域を好む種がみられるなど、「水のまち」うきはを特徴づける生きものが生息しています。



トゲナベタムシ

石積みの棚田

耳納連山の水の恵みと、山を拓き、石を積み上げた人々の努力が「うきはの棚田」を造りあげました。「空から石積み」という方法で積み上げられた石積みは、今でも地域の人々の努力によって守られています。



石積みの隙間にマムシがいるよ!

また、トカゲ類やヘビ類などの爬虫類は、すみかや隠れ場所として石積みを利用しており、うきはの石積みは生きものにとっても大事な存在となっています。

耳納連山を源流とする巨瀬川、小塩川、隈上川。筑後川に注ぎ込む、うきはの豊かな恵み。

うきは市の

環境と生きもの



うきはテロワール

7大自然要素

テロワールとは、生育地の地理、地勢、気候の特徴をさすフランスで生まれた言葉です。うきは市はフランスのワイン産地ボルドーやアルザスとよく似た日本でもめずらしい地質・地形を有していることもあり、うきは市の農業をとりまく環境を「うきはテロワール」と名付けました。



平坦部



筑後川の南には、肥沃な水田や畑が広がります。また、筑後川や耳納山地を源流とし、筑後川に注ぐ、巨瀬川や隈上川などの河川が見られます。

見られる生きもの

イヌガらし、セリ、コナギ、マコモ、タヌキ、カワセミ、ヌマガエル、スッポン、ギンヤンマ、クマゼミ、オイカワ など

丘陵部



耳納山地山麓の丘陵部には、山林や果樹園が広がり、秋にはカキの葉が色づき山肌が赤色で染まります。また、所々にため池があります。

見られる生きもの

スマレ、ノアザミ、キツネ、キビタキ、アカハイモリ、コマルハナバチ、ゲンジボタル、アブラゼミ、カワムツ など

山間部



耳納山地の山間には溪流が流れ、樹林が広がります。山間の集落には、石積みの棚田が見られ、所々にため池が見られます。

見られる生きもの

スダジイ、ヤブツバキ、イノシシ、クマタカ、アオバト、カジカガエル、ミヤマクワガタ、ヒグラシ、タカハヤ、ヘビトンボ など

うきは市では2022年度に示した市内6カ所において、生物調査を実施しました。

※生物調査で確認された種の中から、自然環境の動向を表す種(=環境指標種)、身近によく知られた種、生物多様性に迫る4つの危機に関係する種などを選んで、【地域で見守っていききたい種・注意していききたい種】として、p6～15で紹介しています。



身近な環境は、様々な生きものすみかとなっています。



河川

水中には水草が生え、オイカワなどの魚が泳ぎ、河原には草性の植物、カエル、トンボなどの昆虫が見られます。川は多くの生きものすみかであり、すみかをつなぐ移動経路としても大切な役割を果たしています。



ため池

水中には小魚やゲンゴロウなどの水生昆虫、水辺にはカエルなどが生息し、これら小動物を餌とする鳥や獣が利用しています。また、カイツブリなどの水鳥や、カモなどの渡り鳥が羽を休める大切な場所となっています。



農耕地

水田にはカエルやトンボなど、水路にはメダカなどの小魚や貝類など、畦や畑には草地を好む昆虫がすんでいて、これら小動物を食べる鳥やヘビなどが見られます。農耕地は、水辺や草地を好む多くの生きものすみかとなっています。



溪流

水中や水辺にはタカハヤなどの魚類、サワガニやトビケラ、カワトンボなどの昆虫、カエルなどの小動物がすんでいて、これら小動物を餌とするカワガラスなどの鳥やイタチなどの獣が利用しています。



果樹園

果樹に咲く花の蜜や、花粉が集まるハチやハエの仲間、果実に集まる昆虫やヒヨドリなどの鳥が見られるほか、果樹園の下草にはバッタ類、それを餌とする鳥や獣が利用しています。



山林

林内には葉や落ち葉、花の蜜、果実などがあり、これらを餌とする昆虫、鳥、ネズミなどの小動物がすんでいます。また、小動物を餌とするヘビ類、それを食べる猛禽類や獣が見られ、山林は多くの生きものすみかとなっています。